平成２５年度調査研究等計画書

事　業　名	日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業　（国事業名：国際資源評価等推進委託事業）			
事業年度	昭和61年～	事業費 財　源	2,119 千円 (－)　(国)　(諸) 2,119	担当者　漁業資源課 杉本昌彦

【背景・目的】

国際的な資源管理の枠組の中で、北太平洋におけるかつお・まぐろ漁業を存続させ、資源の持続的な利用と管理を推進するためには科学的データの蓄積が不可欠である。本事業では、全国関係都道県が国際水産資源研究所の定めた共通様式で統計資料等を整備し、我が国周辺における対象魚類の漁獲状況を把握するとともに、クロマグロ幼魚が最も早くまとまって漁獲される本県の地域特性を利用してクロマグロの初期加入に関する情報を把握する。

【事業の概要】

国際的なかつお、まぐろ資源の持続的利用のため、対象資源の科学的データを収集する。

1)基礎資料（水揚量等統計資料及び魚体測定データ）の収集・整理

2)クロマグロ初期加入量（来遊量）調査

3)クロマグロ標識放流

【全体計画とこれまでの成果】

1)水揚量等統計資料及び魚体測定データの蓄積

2)クロマグロ幼魚の初期加入状況の推定

・平成 23 年の漁場は、７月下旬に土佐湾中央部の水深 200m 以深の大陸棚斜面上に形成された後、足摺岬東側を主漁場にして土佐湾西部から中央部にかけて広く分布した。8 月の漁場は、さらに沖合まで広がった後、土佐湾西部で消滅した。

・曳縄調査の定線を定めるための事前調査を行い、平成 24 年に面的に広げた定線を定めた。

3)クロマグロ幼魚の移動

・5、6 月に南西諸島で生まれる太平洋発生群は、高知などの太平洋側に移動するものと五島、対馬等の東シナ海側に移動するものに分かれることが明らかになっている。

【25 年度計画】

・平成 25 年の県下主要市場のかつお、まぐろ、かじき類の水揚統計資料の整備。

・体長、体重測定データの整備

・平成 25 年の曳縄漁船のヨコワ CPUE の整備

・高知県海域へのクロマグロ幼魚の初期加入状況を曳縄定線調査により推定。

・漁獲位置、魚種等を曳縄標本船調査により把握。

・国際水産資源研究所が行うクロマグロ幼魚の標識放流後の回収への協力

【成果目標】

かつお・まぐろ類の安定的な利用の確保のため、収集した科学的データを整理し、これらの情報を国際水産資源研究所へ提供することで、国際的な視点の中で業界への対応策を提言する。

【期待される効果】

かつお・まぐろ資源の持続的な利用